

はじめに

あなたは「結婚はしたいけれど相手がいない」と思っていませんか？ 実はそういう人が男性にも女性にも大勢いるのです。とすると、男女ともに探し方や条件選択などの方向性が違っているのかもしれませんが。

本コースはそんな「結婚したい人」を応援するものです。結婚のメリット・デメリット、結婚しないことのメリット・デメリットを理解していただいた上で、実際にどうすれば、理想的なパートナーと出会う確率を高めることができるのかを学習します。

「結婚相手を見つけるテクニックを学んでも、簡単に見つかるわけがない」とあきらめないでください。前向きに行動すれば、必ず理想の人が見つかります。

『結婚編1』の執筆者は、マーケティング会社を経営する雨村幸親氏です。これまでのべ1万人近くの結婚や恋愛の相談を受けてきたことをもとに、そのデータとマーケティングの技法を使って、結婚できない人の問題解決法を編み出しました。

ここではマーケティングの原則に基づいて、「パートナーの選び方」や「自分磨き」について考えます。ただやみくもにパートナーを探すのではなく、自分の理想の人と効率よく出会える方法を探ります。また、そのために自分の長所や価値観を把握する必要性も学び、結婚への道を開くとともに、自分自身も成長していくことを目指します。

自分は結婚生活に何を求め、どのような幸せを望んでいるのか、そしてあなたの理想的なパートナーとはどんな人なのか、それが具体的にになっていくのを楽しみながら学習していただければ幸いです。

CONTENTS

ワークライフバランスシリーズ 結婚編-1

ベストパートナーを見つける

第1章

結婚の理想と現実を知る

- 6 | 1-1 現代の結婚事情
- 8 | 1-2 結婚も悪いことばかりじゃない
- 11 | 1-3 結婚しない人は、それなりのリスクマネジメントが必要
- 14 | 1-4 出産・育児を考えたら結婚は早いほうがいい
- 16 | この章のまとめ Example

第2章

あなたの“幸せ”の基準を把握する

- 18 | 2-1 どんな結婚生活が“幸せ”なのか、ゴールを設定する
- 24 | 2-2 恋人と結婚相手の違いを再確認する
- 27 | 2-3 20%の重要な条件を満たしている
結婚相手は80%理想的
- 30 | 2-4 “絶対に結婚したくない人”を考えてみる
- 34 | この章のまとめ Example

第3章

あなたの中の心理的な“結婚へのハードル”

- 36 | 3-1 年齢というハードルを越えるために
- 39 | 3-2 相手との年齢差を考えてみる

CONTENTS

- 44 | 3-3 別れとうまくつきあえば、可能性は広がる
- 49 | 3-4 出会いがないとあきらめていないか？
- 52 | この章のまとめ Example

第4章

理想の相手と“出会う”確率を高める方法

- 54 | 4-1 200人の異性に出会うことが必要
- 58 | 4-2 効率よく出会って、理想の人を見つける確率を高める
- 62 | 4-3 あなたの“出会いの場所”のタイプを知ることが決め手
- 67 | 4-4 ここが穴場！ 意外な場所での出会い
- 72 | この章のまとめ Example

第5章

プロポーズにいたるまでのノウハウ

- 74 | 5-1 自分のブランド化計画 あなたは誰よりすばらしい
- 79 | 5-2 気に入った相手と親密になるには
- 82 | 5-3 自分に興味を持ってもらう方法
- 85 | 5-4 「結婚はタイミングだ」の真意
- 88 | 5-5 相手を結婚に踏み切らせるコツ「カウンターオファー」
- 92 | 5-6 クロージング&プロポーズ
- 95 | この章のまとめ Example

第 1 章

結婚の理想と現実を知る

この章で学ぶこと

- 1-1 現代の結婚事情
- 1-2 結婚も悪いことばかりじゃない
- 1-3 結婚しない人は、それなりのリスクマネジメントが必要
- 1-4 出産・育児を考えたら結婚は早いほうがいい

1-1

現代の結婚事情

■ 結婚は「必要な手段ではなく、選択肢」と考える風潮

昨今、日本では晩婚化が進み、生涯を独身で過ごす人も増えていると言われています。まずは統計的なデータを見てみましょう。

厚生労働省の発表によれば（平成18年度『婚姻に関する統計』の概況・人口動態統計特殊報告）現在の結婚平均年齢は約30歳（男性：31.7歳、女性29.4歳）です。

これはもっとも結婚平均年齢が低かった70年代に比べると、4歳近く上昇しています。この原因にはさまざまなことが考えられます。

ひとつには、結婚しないことに対する社会のプレッシャーが少なくなってきたことです。その良し悪しは別として、ひと昔前は「身を固める」、「男は結婚しないと一人前とは言えない」などと称して、ある程度の年齢になった男女を積極的に結婚させようという動きがありました。今では「結婚しないこともひとつの選択」という理解も進み、結婚しないことを許容する雰囲気が強くなりました。

また以前は、そのような社会のプレッシャーから親や親戚が積極的にお見合いなどの話を持ち込んでくることも少なくなかったようですが、今ではそのプレッシャー自体が減り、外部からの働きかけも少なくなっています。

さらに男女の雇用格差も改善されてきて、女性も長く働き続けることで自分の生活を維持していくことが比較的容易になってきました。そのため、一時期は「永久就職」と揶揄

されたような、生活のために結婚をする必要がなくなり、結婚は「必要な手段ではなく、選択肢」と考えることができるようになったこともあります。

■ 結婚は自由を束縛するのか？

しかし、いずれにせよそのような経済的、社会的要因はあくまで十分条件であり、それだけの理由で晩婚化・非婚化が進んできたわけではありません。もっとも強い要因は、「結婚することで、よりよい生活が手に入る」というモチベーションがなくなってきたことではないでしょうか。むしろ昨今の価値観では、結婚というスタイルを取ることによって起こる面倒なことを数え上げるような雰囲気があり、今ひとつ結婚に積極的になれなくなっていると考えられます。

たとえば恋人がいて、あなたも恋人もそれなりの収入を得られる状態だとします。婚姻届を出さなくても一緒に暮らせば寂しくありませんし、友人や職場の仲間と自由に遊びに行くことも可能です。お互いの生活に“干渉”する必要も義務もなく、もし2人の相性が合わないと判断したならば、比較的簡単に別れることもできます。

しかし、もし結婚していたとしたらどうでしょう。一般的にはお互いの自由はある程度束縛されますし、勝手気ままに遊び歩くこともできません。また、たとえ2人の相性が合わないと判断したとしても、おいそれと別れることはできません。このような尺度で考えると、結婚に踏み切ることによって受けるデメリットは大きく、あえて結婚する強い理由を見出すことができません。

もちろん、いつかは結婚しようと漠然と考えている人も多いでしょう。いわゆる「できちゃった婚」と呼ばれる、妊娠をきっかけに結婚する人が増えているのも、「子供ができたのだから結婚するほうが自然」という理由が生まれたからということもできます。そのようなきっかけがなければ「決断するのは明日」とある程度の年齢まで結婚を先延ばしにしたり、もしくは結婚しないまま別れてしまう結果になることもあります。

しかし、結婚とはそれほど魅力に欠け、リスクの多いものなのでしょうか？

1-2

結婚も悪いことばかりじゃない

■ 「現状」から離れる不安感を消そう

あなたは、学校を卒業して、社会人になることがいやではありませんでしたか？ なぜなら仲の良い友達とも離れ離れになり、自由に遊びまわることもできなくなるからです。また、会社という初めての場所に通い、まったく見ず知らずの人たちの中でうまくやっていけるのか不安に思ったかもしれません。

しかし、今のあなたにはそれが杞憂だったことがわかっているでしょう。確かに、自由はある程度制限されることになったかもしれませんが。しかし就職することで、あなたは違う形の自由や達成感を得ることができるようになったはずです。

私たちは「未知のもの」に対して不安を感じ、できるだけ現状を維持しようとするものです。これは人間としては当然の反応です。現状に満足しているかどうかは別として、「現状」は私たちにとって「既知」のものであり、なじみのあるものです。それをわざわざ捨ててまで、新たな環境に飛び込んでいくことにはリスクを感じるのです。

さらにその「未知のもの」を現在の物差しで測ろうとしてしまいます。たとえば学生から見れば、社会人はとても束縛され、自由がないように感じるでしょう。しかし、実際には学生のほうが保護者の管理下にあり、経済的にも自立していないので“束縛されている”度合いは高いのです。けれどその事実を学生は容易には理解できないかもしれません。

■結婚には「リスク」が多いという思い込み

つまりあなたが結婚に対して感じている「リスク」は、ある程度偏見からきているのです。今まで見聞きしてきた誰かの結婚生活、もしくは、あなた自身が勝手にイメージしている「結婚」というものが、あなたに強いリスクを感じさせている可能性が高いのです。

たとえば、「結婚すると自由に遊びに行けなくなる」という人がいます。

本当にそうでしょうか？ パートナーが喜んであなたを遊びに行かせてくれる可能性はないのでしょうか？ もしくはパートナーの友達を交えてさらに交際範囲が広がり、より楽しい暮らしができる可能性はないのでしょうか？ あなたが「そもそも遊びに行かなくてもいいと感じる」可能性はないのでしょうか？

既婚者が「うちの旦那は厳しくて、自由に遊びに行かせてくれない」、「うちのかみさんは飲んで帰ると機嫌が悪い」とこぼしていたからといって、もしくはあなたの父親が厳しくて、母親があまり自由に歩けななことをかわいそうに思った体験があるからといって、あなたもそうなると思えなくていいのです。なぜならあなたには、「あなたにとって最適な人と結婚する自由」があるからです。

「結婚」に決まったスタイルがあるわけではありません。友達には友達なりの結婚生活が、両親には両親なりの、そして「あなたにはあなたに合った結婚生活があり、それをこれから選ぶことができる」のです。決して誰かの結婚生活をコピーする必要はないのです。

家事が苦手、友達と自由に遊びに行きたい、自分の収入は自分のために使いたい、時にはひとりだけでぼーっとしていたい……どんな条件でも、結婚できない理由にはなりません。極端な話、どんな条件を挙げても「それを許容する（もしくは喜ぶ）」パートナーであれば何の問題にもならないのです。しかし、それでもあなたは心配かもしれません。「結婚して、うまくいくかどうかかわからない」と。

そればかりは「神様でなければわからない」のです。道を歩いていて隕石^{いんせき}が落ちてきて死んでしまう可能性もまったくないとは言えません。だから「絶対に危険なことをしない」ようにするとすると、道を歩くこともできません。もちろん、結婚がうまくいかない可能性は、道を歩いていて隕石にぶつかるよりはずっと高いでしょう。しかし逆を言えば、隕

石にぶつかれば即死ですが、結婚生活がうまくいかなかったとしても死ぬことはないのです。

多くの人は「結婚がうまくいかないリスク」を過大に考えています。うまくいかなかったらどうしよう……そう考えると、どうしても結婚に二の足を踏んでしまいます。しかしそのように考える人の多くは、「結婚がべらぼうにうまくいって、むちゃくちゃ幸せになる」という可能性を忘れているのです。また、相手を選ぶ時に「無理やり」とか「なんとなく流されて」などの間違いを犯さない限り、大半の結婚はうまくいくものです。

結局のところ、結婚してうまくいくかどうかは「結婚してみないとわからない」のです。

もちろん、不幸にして別れてしまう可能性もないとは言えません。しかし、それはあくまで単なる結果でしかなく、決して「失敗」ではないのです。

電球を発明したトーマス・A・エジソンは、成功するまでに何百という素材を使って電球をつくろうとしましたがうまくいきませんでした。「何度も失敗していやになりませんか？」とたずねた記者に対し、エジソンは「失敗しているのではない。うまくいかない方法を発明しているのだ」と言ったそうです。

ですから、あなたの結婚はいずれにせようまくいきます。もし不調に終わったとしてもそれは「うまくいかない相手（関係）」がどのようなものかを知り、次にそれを生かすことができるようになったということです。

結婚には多くのメリットがあります。たとえば年齢を重ねても支え合えるパートナーがいることで得られる安心感、子供を持つことや家庭を協力して築いていくことで得られる達成感、そして自分の苦手な部分をカバーし合うチームとしての強さなどが挙げられます。

あなたがどのポイントにメリットを感じるかはわかりませんが、重要なのは「結婚しないというメリットはほとんどない」ということです。もちろん、無理に相手を決めて結婚する必要はありません。もしすでに相手がいるのに、結婚を先延ばしにしているなら、それはいたずらに問題を複雑にするだけで、そこに大したメリットはないでしょう。

「案ずるより産むがやすし」という格言もあります。もし、あれこれ悩んでしまうのであれば、まずは結婚してみて、それから考えるというのもひとつの選択肢です。